

きずな



発行 観音寺市民生委員児童委員協議会

会長 田中英昭

住所 観音寺市坂本町一丁目1番6号



4月には四国でも震度6の地震に見舞われました。懸念されております南海トラフ地震についても、再度詳細に検討しなければならなくなりました。観音寺市は多様な地区環境があり、より細かなハザードマップ作成が急がれます。これらによる災害時要支援者の避難支援計画の見直しも早急に進めなければなりません。災害に備える民生委員児童委員活動の基本的考え方3つのポイントを再認識し、活動10カ条を日々整理していかねければなりません。

また、創設30周年を迎える主任児童委員制度の現状把握と児童委員活動のさらなる推進も必要です。先の全民児連児童委員活動推進部会でもこれまでの活動に対する評価や改廃、新規活動の立案など活発な意見交換がなされています。今の子供たちの現状を理解し、より良い環境整備を考えなければなりません。

このように多様な課題に対する民生委員児童委員活動の充実強化が今求められています。地域の中で期待される役割を理解し、適切な支援につなげ、見守っていくことで、誰もが笑顔で安全に安心して暮らせる地域づくりを関係機関や団体と連携しながら進めていきたいと思います。今年度もなお一層、皆様のご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。



観音寺市民生委員児童委員協議会

会長 田中英昭

最近思うこと

最近、終活ブームなのかそれについて情報が巷にあふれています。その中で「人間関係の整理」というのがあるそうです。私は毎年届く年賀状をいつも楽しみにしています。相手によっては年に1回だけのお互いのつながりを確認する儀礼的な儀式ですが、その年賀状で相手の健在を確認し、若い時に一緒に過ごした日々を懐かしく思い出します。自然の摂理ですが人の命はいつか尽きるものです。年を重ねていくと、一緒に過ごした思い出や経験を共有できる人が自ずと少しずつ減っていきます。だからこそそれを共有できる仲間を大切にしていきたいと思っています。しかし、時折「年始のご挨拶を今年限りにてご遠慮いたします」などの年賀状を受け取ることがあります。人にはそれぞれの事情があると思います。その時はやり取りがもうできなくなるのかと思い、さみしくなります。たとえ会えなくても、「お前も頑張ってるぞ」と生きるエネルギーを年賀状は私に与えてくれてきました。人間という文字は「人と人の間で生かされる」と書きます。やはり「人と人とのつながり」があつてこそ自分の存在を社会の中で再確認できるのではないのでしょうか。

2年前「民生委員」という仕事を引き受けることになりました。その活動を通じて現役の時には顔を見ても話をしたことがなかった人とも話すようになり、顔見知りも増えてきました。現役の時はどうしても職場中心の人間関係でしたが、その時には築くことができなかった地域の人たちとの新しい人間関係ができてつあるように思います。この「民生委員」という仕事は、周りの人をサポートするだけでなく、自分自身の人間関係を広げ、思い出を共有できる新しい仲間づくりにもつながるのではないかと思っています。

また、最近思うことですが、年をとつても心と精神は常に柔らかく若々しくありたいと思っています。書道家でもあり詩人でもあった相田みつを先生は「一生勉強一生青春」という言葉を残されています。私の身勝手な解釈ですが、これはいろいろなことに好奇心を持ち、行動しなかった後悔を持つよりも、まず行動してその結果を生かし、それから考え進んでいくことではないかと思っています。そこで、これまで釣りの趣味はありましたが、一昨年からサイクリングに、去年からピアノ弾きに、今年はアウトドア料理に挑戦しています。これからも1年にひとつずつ趣味を増やしていきたい、知識と経験を豊かにするとともに、人との出会いを楽しんでいきたいと思っています。



地域とともに

簡単に民生委員を引き受けてしまった。どうしよう？ が本音でした。地域を知らない。自宅と会社の往復で、近所しか知らない会社員でした。

初めての人に会う。何を話そうか、不信心を持たないようにどう接しようか。まず顔を覚えてもらわないといけない、何度も訪問しました。いつも不在のところが数軒あり、近所の人に聞いてもわからず。緊急連絡先に確認したらすべての方が介護施設に入所していたので安心したこともありました。また、いろいろな相談もありました。一つずつ課題解決して、今ではやさしく接してくれま

す。いろいろなことを笑みを浮かべながら話してくれま

す。きずなカードの重要性を話したら、新たに数人の人が設置してくれました。でも一番うれしいのは「元気だよ」の一言。悲しいこともありましたが、1週間前に元気に話してくれたおじいちゃんの突然の死。信じられませんでした。

若い子相手では、交通指導員と登下校の見守りやボランティアでこどもパトロールをしています。自転車に乗り、足が届きかねていた子が、明るく挨拶してくれる、もう中学2年生。小学校低学年の子どもたちが、花が咲いていたから、バツタがおったからと各駅停車しながらの下校。おかえり、ただいまで始まる話がエンドレス。

高齢化、少子化が進んでいる地域ですが、福祉委員さんとの情報共有、また情報の最新化を図り、社協・自治会とも連携し、地域の皆さんが安心して暮らせるよう活動を続けていきます。



小学校集団下校時の見守り

地域でのつながりを大切に

民生委員を拝命して5年目になります。当時は、コロナ禍で研修が中止になり、いろいろな行事も行えず、訪問活動も思うようにできませんでした。

コロナウイルス感染症も第5類に移行され、徐々に活動も再開されるようになりました。

私の担当地区は、4自治会あり65歳以上の高齢者は二百名近く、子供たちは大学卒業後県外に就職、若者の地元離れが進み、高齢者世帯・一人暮らし世帯が増加しています。

見守り活動として、一人暮らし世帯を訪問した時「こんにちは、変わりないですか？」と声をかけると「はい、ありがとうございます。変わりはないよ。忙しいのにもいつも気遣ってもらってありがとう」と言いながら、玄関まで出て来られ、日頃の暮らしの不安等について長々と話されます。帰る時は、何かほっこりした気持ちになり、また訪問して話を聞いてあげたいと思います。

新年早々能登半島地震、日航機事故と思わぬ災害が続き、近い将来起こるであろう南海トラフ地震が心配されます。災害の時、民生委員として何ができるのか、どのような対応

をしたらいいか、みんなで話し合う必要があると思われまます。

毎年5月の民生委員の日に合わせ、小学校の通学路を歩いて点検するマップウォーキングが行われます。警察のご協力により民生委員、各種団体の代表者等が、子供達と一緒に下校して、地区ごとに危険箇所などを地図に書き込み、3年に1回全戸に配布しています。

今年は、県警の音楽隊が演奏してくださり、盛大に行うことができました。これからもいろいろな行事を通して、地域とのつながりを深め、寄り添いながら活動していきたいと思ひます。



「民生委員の日」に小学校へ県警の音楽隊が来て演奏

「人」と「人」のつながり

先日、スーパーマーケットに行つたときのことです。出入り口付近で人の流れが滞つており「どうしたのかな。」と思つて見てみますと、高齢の女性が買い物を終えて店舗を出ようとしてるところでした。押しているカートには、買った商品が入った大きな段ボールの箱や幾つかのエコバックが上下段に積まれていました。さらに、隣には高齢の男性が座っている車椅子があり、その方は車椅子の操作が難しいのだろうと見受けられました。その様子を多くの人が目にしながら、誰もが二人の脇をすり抜けていきます。

そのとき、一人の男性が車椅子に座っている方に何か話しながら腕を回して抱え上げようとした。わたしは「ご家族が一緒なら大丈夫。車まで抱えていくんだな。」と思いました。けれども、あまりにも大変そうなので「何かお手伝いできることはありませんか。」と声を掛けてみました。すると、その男性は抱えるのを止めて「じゃ、お願いします。」と言つてその場から去つて行つてしまいました。（もしかすると、その方は車椅子が店舗用だと思つたのかも知れませんが）

「えっ？」思いもよらぬ展開に一瞬戸惑いながらも、ご家族だと思い込んでいた自分に気づき、もう一度女性に「このカート、車まで押しま

しょうか」と言ってみました。すると、遠慮しているのか警戒しているのか「いいえ、大丈夫です」と、あっさり断られました。けれども、カートと車椅子の両方は無理なので、誰かに手伝つて欲しいという気持ちがあるかも知れないと思い、自分が柞田地区の民生委員・児童委員をしていることを伝えてみました。すると、今度はほつとした様子で「そうですか。ありがとうございます。」という返事をいただくことができました。（民生委員についての理解がある方でした）

車は出入り口に近い障害者専用駐車区画（通称・思いやり駐車場）ではなく、混雑を避けるためか広い駐車場の店舗から遠い所に駐車されていました。先にカートから荷物を下ろして車のラゲージルームと後部座席に分けて積み込み、次に二人で男性を支えて車椅子から車の座席に移しました。最後に車椅子を折り畳んで積み終えたとき、女性の方と目が合い互いに笑顔で会釈を交わすことができました。

高齢運転者標識（通称・シルバーマーク）を付けた車を見送りながら改めて高齢者世帯の「買い物」と「介護」、どちらも大変だと思ひました。「帰宅したとき、誰かが居るといいのだけれど・・・」



ある日の主任児童委員の会話

「主任児童委員になって1年が経ったけど、どうかな、引き受ける前とで何か変化はあった？」

「子どもたちが大好きっていう気持ちには変わらんかな。でも、子どもたちのために何ができるかを考えるようになって、悩むこともある」

「そっか、私も主任児童委員になった最初の頃はもうしたらいいかすごい悩んだわ」

「え、そんな風には見えんけど」

「いや、だいぶ悩んでるよ。とりあえず子育てサロンで知り合いを増やしていこうと思ったら、コロナで1年くらい中止が続いて。あの頃は怖くて何もできなかった。でも、せっかく前の主任児童委員さんが作ってくれた交流の場をなくしたくなくて。なんとか考えたのが《家族単位での工作》。

毎回、工作内容を考えるのは大変だったけど、来てくれる人がいたおかげでがんば



クリスマス会でハンドベルを披露

れた。あと、地域の人協力してくれたのもありがたかった。当日、スタッフとして手伝ってくれて、サロンを盛り上げてくれた。やけん、私も地域の集まりには積極的に参加してできることをしていこうと思ったん。そうすることで主任児童委員を知ってもらえて、アドバイスをもらえるようになったし」

「なるほど、私も地域の人と関わる中で相談したり、協力してもらえることが増えて、悩みが軽減されたことがあって、地域の人とのつながりって大事やとほんまに思ったわ」

「あと、後輩ができてすっかりしなきゃ、と思ったことも大きい」

「いつもいっぱい質問してるよね」

「いやいや、私も勉強させてもらってます。いろいろなアイディア出してもらってるし、すごい助かってるよ」

「こちらこそ、私ができることで喜んでもらえたらうれしい」

「私たちの連携もやけど、地域の人にも協力してもらいながら、できるだけのことをこれからもやっていこうね」

「これからもよろしく願います」「こちらこそ、よろしく願います」

私の電話に出てよ。心配してるんやから。特に避難の時な!

私の見守り地区は、自宅から半径2・5キロ、見守り軒数は少ない。その中に隣同士が遠いポツンと一軒家が3軒ある。洗濯物の様子や電気がついていないかを見通せず、訪問なくして異変を察知することはできない。平成16年の大雨の爪痕を今なお残し、どうにか通行できる道路にも、その数カ所には危険箇所を示す赤いコーンが置かれたままある。車同士が十分すれ違えず、わずかだが携帯が圏外のところもある。

しかしながら、子どもの頃魚釣りをした川の横を通り、周りをキョロキョロしながら訪問すると、珍しい草花や野鳥が出迎えてくれて、心癒やされる。少し離れただけなのに、周りの景色が全く異なる。訪問時に見た光景を助け船にして、草花の話から始まり、楽しい話や思い出話を聞かせてもらえるのも楽しみの一つである。

防災への声かけも欠かせない。

当地には警報が出るとすぐ、高齢者等避難が発令される。昨年の大雨の折には、



竜王神社のしだれ桜

自治会長や消防団の方々と連絡を取りながら避難を促すも「道中何かあるといけないし、道路が寸断されて戻れなくなるので。」と、みんな自宅に留まった。連絡が取れた人はまだ良い。連絡の取れない人もいて不安ばかりが募り無力さを感じた。毎年のような大地震や水害のニュースは胸が痛むばかりであるが、決して他人事ではない。当地に住まうみんなに、報告、連絡、相談、情報を共有する大切さを少しでも意識してもらいたいと切に願ひ、これからも呼びかけ続けていこう。

見守りは、その地域によって、人によって異なる。近隣に人家がありお元気ならば、遠くからの見守りでOK。しかし、隣から確認できないとなれば配慮が必要である。顔を見て、お話を聞き、何か変わった事はないかを感じ取ることは重大だと思う。今日もみんなに会えて元気で良かった、と安心する日々が続く事を願って見守りたい。

私は、いつも冗談っぽく本気でこう言っている。

「私の電話出てよ。心配してるんやから。特に避難の時な!」

これから、もっと

令和2年以降のコロナ禍を経て、民生委員となり、1年半が過ぎようとしています。初めて地域の福祉活動に携わることになった3年間は、

コロナ禍のためさまざまな活動が制限されました。それでも、敬老の日のお祝い金配布が個別訪問によるものに変わったり、高齢者への「おはぎ宅配」が始まったりして、少しずつ地域の方々を知ることができました。それまでは、仕事中心の毎日を過ごしていた私にとって地域への恩返しの一歩になったような気がしました。

民生委員になってからの1年半は、あつという間でした。徐々に制限がなくなり、昨年度からは「いきいきサロン」が各地区で再開されま

した。回数や時期・内容などは各地区に任されたので手探りでスタートでした。みんなで話し合い、実践する中で課題や反省点もありましたが、帰りの参加者の笑顔を見ると「次も頑張ろう」という気持ちになりました。仲間と一緒にだから味

わえる充実感でした。一番頑張った活動かもしれません。

民生委員の仕事は多岐にわたります。ボランティア活動・会議・募金活動・独居高齢者の見守り活動・地区社会福祉協議会の活動・青少年育成会の交通安全指導など幅広いものです。自分のできることから始めましたが、訪問活動などまだまだ不十分と感じています。今回の見守り表をチェックすると入院された方、親戚の方の世話で施設に入所された方がいました。確認に時間がかかり、情報不足を感じました。地域包括支援センターや市社協との連携を密にして、これから、もっと、高齢者の方々が安心して暮らせる福祉活動に努めたいと思います。



いきいきサロン クリスマスリースづくり

想い

主任児童委員の大役を受けて、1年余りたちました。何もわからないまま、月に一度の主任児童委員部会の定例会に参加することになり、二十数名の経験豊富な方々の中で、私に何ができるのかと最初はとても不安でした。

定例会ではテーマに沿って全員の意見が求められるので、どうまとめようかと話せばいいのだろうと焦る気持ちがいっぱい続きました。

しかし、回を重ねるごとに、内容がまとまらなくても自分の思いを素直に伝えれば、他の方からの助言も受けられるので、毎回勉強になりました。持ちも落ちてきてきました。

高齢化率の高い私の住む地域では、民生委員は地域住民によく知られているし、高齢者からも頼られています。一方、私達主任児童委員の認知度は低く、こちらから声掛けをしても気持ちを通じないことがあります。自分にできることを、と思い、孫たちに友達との生活の中での様子を聞いて、変わったことはないかと常々気に留めるように心掛けています。

先日、地域の運動会で民児協のちらし等を配布し、孫たちと一緒に競技に参加したのですが、その中でうれしいことがありました。

以前から気になっていた生徒の名前が「指揮者」欄にあり参加するのだろうかと思っていたところ、最上級生として壇上で立派に演技していました。全ての競技に参加してがんばる姿とはじける笑顔が見られてうれしく思いました。

もう一つ、グラウンド・ゴルフでは、100歳のお年寄りといっしょの保育園児が、同じ競技と一緒に楽しんでいたのも、狭い地域ならではの胸が温かくなる出来事でした。

主任児童委員になったことで、学校行事等子どもたちに会える機会が増えたことをうれしく思います。成長していく過程を地域の人たちと見守っていききたいと思います。



主任児童委員になつて

「主任児童委員は担当区域を持たず、単位民児協が担当する地域全体の子育て支援や児童健全育成活動、学校等関係機関との連絡調整などに地区担当民生委員・児童委員と連携・協力して取り組んでいます。子どもや子育てに関する支援を専門に担当する児童委員。」私が主任児童委員で何だろうと思った最初の頃、本を開いて目に入った言葉でした。それからはや10年、何をしてきたのだろう。

研修会や情報交換等に参加し勉強させてもらいました。子どもたちとの関わりは、授業参観、運動会等学校へ出向けば子どもたちとあいさつします。元気な声が返ってくるとうれしいです。中でも毎年学校の授業に関われているのが福祉体験授業です。3年生が視覚障害者体験、高齢者疑似体験、車いす体験に取り組んでいて子どもたちは2人組でお互いが思いやり、助け合う体験をしています。中にはふざける子やなかなか準備ができない組があったり、私たちはそれを見守ったり助けたりと補助役をしています。

コロナ禍の中ではお互いマスクをして表情もわからないし、接し方に

とまどいましたが、最近はマスクもほとんどの子どもがしていないので明るい表情が見え、子どもらしさを感じられるようになりうれしく幸せな気持ちになりました。

私たち主任児童委員は地域の灯台でいてほしいとありました。1人でも助けを求める方がいれば灯台のようには照らせるお手伝いできればよいのかなと。私ができることは子どもたちとの関わりを大切に、笑顔あふれる子どもたちが元気に楽しく過ごせるように見守っていくことでしょうか。とても難しいことかも知れませんが活動していきたいと思っています。



小学校で福祉体験学習

楽しかった一日サロン

民生委員になつて2年目、やつと何をするかわかつてきた、というところでした。在宅福祉部の担当になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため3年間行事が行われておらずほとんどゼロからの出発のようでした。手探り状態で「一日サロン」の行事にとりかかりましたが、どうせするなら自分も楽しめるものと思い、邦楽（箏）の演奏活動をされている知り合いにお願いしました。すると快く引き受けていただき、11月に大輪の菊を愛でながら1時間あまり琴の調べに耳を傾けました。参加者のみなさんは時には曲を口ずさむなど大いに楽しめたようでした。「今度は演歌もいれてください」と注文をつける方もいました。また、演奏された7人の方にも「一緒に歌ってくれたのが大変うれしかった」と言っていたので、私にとっても楽しい行事となりました。

民生委員のみなさんの苦労もよくわかりました。私の両親が存命のとき、赤飯やおはぎを届けていた大変ありがたいことだと思っていました。自分が民生委員になつて初めてその苦労がわかりました。このような配慮は、一人暮らしの高齢の方にとっては特にありがたく心強く感じられることでしょう。貴重な支援活動だと思います。しかし、国勢調査の結果から2050年には65歳以上の独居世帯が約2割との予測がされています。見守りの対象となる75歳以上の独居世帯はその半数としても1割ぐらゐとなります。また高齢者世帯も増えており、民生委

員の負担がますます大きくなるのではないのでしょうか。

子どもの減少も問題です。しかし、今の子どもたちがのびのびと外で遊ぶ場がないことも気になることです。私が子どもの頃は道路が遊び場でした。みんなでワイワイ言いながらビー玉をしたりパッチンをしたり。今ではとんでもないことですが「遊びは子どもの主食」です。なんとか満腹にしてあげられないものではないでしょうか。



編集後記

会報きずな第12号の発刊にあたり、ご寄稿を頂きました皆様、誠にありがとうございました。

編集委員一同、心より感謝申し上げます。

皆様の文面から優しさや真面目さが十分に伝わってきます。

支え合い助け合い、より優しく、より住みやすい地域作りの一助になればと思います。

引き続き、民生委員・児童委員の活動に、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

編集後記 三好 英志
表紙題字 富原 一郎
表紙スケッチ画 高橋 康員